

予算額

9,847,440 円

## トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	7 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ 6 団体	スポーツ少年団 団体	学校 1 団体	その他 団体

トップアスリート総数	8 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック 1 名	国際大会 名	全国大会 4 名	その他 3 名

アシスタントコーチ総数	6 名
-------------	-----

指導種目	陸上、サッカー、剣道
------	------------

## ◆効果高めるための工夫や取組など

- 事業の継続性を考えた場合に、既存の活動にアスリートが巡回指導するだけでは既存活動団体の満足度の向上にはなるが、新しい価値(特に追加の金銭的な負担を伴う)を生み出すことは難しいと考えた。そのため、巡回指導先の中心を総合型クラブとし、各クラブとの協議の中で、いかにして新しい価値を地域に生み出すか、そしてそこにトップアスリートの持つ価値を活用するかという工夫を行ってきた。
- クラブからアスリートへの一方的なお願いベースでの協力依頼ではなく、アスリートにとっても地域で活動することが自分達のメリットにつながっていく仕組みを作れるように意識した。そのため、指導以外の場面でもコミュニケーション機会をつくり、アスリートの持つ将来ビジョンや引退後のビジョンなどについてもヒアリングを行った。

## ◆成果と課題

## 〔成果〕

- 地域の総合型クラブにおいて、トップアスリートが活躍する機会を継続的に提供できた。
- 巡回先のクラブにトップアスリートが関わることで、クラブのブランド価値を高めることができた。
- 巡回先のクラブと事業を協力実施することで、クラブ間のネットワークが強化された。
- トップアスリートの持つニーズを知ることができた。
- セカンドキャリアとして指導者の道を目指すアスリートがいることを認識できた。

## 〔課題〕

- トップアスリートの指導は、ジュニアの育成・普及のための指導とはギャップがある。
- 現場に入る前の十分なコミュニケーションでこの事業の理解を得る必要がある。
- この事業目的にフィットするトップアスリートを限られた地域の中で発掘することが難しい。
- 巡回先各クラブの理念や巡回教室コンセプトなども更に共有していく必要がある。
- トップアスリート自身が集客やよりよい教室運営のための努力目標を持てる仕掛けが必要。

地域課題解決に向けた取組

取組の名称	イドバタ元気倶楽部				
趣旨・目的	クラブパレットでは現在も様々な健康づくりに向けた取組をしているが、そういったプログラムに参加していない、あるいは何らかの理由で運動ができない60代前後の高齢者を対象にプログラムを実施し、地方型アクティブ・コミュニティ・サービスを展開した。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なテーマでツアーを組み、生涯学習と運動と食を組み合わせたイベント。</li> <li>・トレーニングルームを使ったグループでの運動プログラム「アラカン元気倶楽部」を月2回のペースで実施。</li> </ul>				
対象者	55歳以上	参加人	93名	実施回数	8回
1 効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様なプログラムを提供するために地元詳しい方をコーディネーターとして配置した。</li> <li>・ 「運動することが健康によい」ということは知っていても「運動が縁遠い」と感じている方々でも健康への意識を高めていくことができるよう魅力的なプログラム提供を行った。</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たなプログラム構築をすることができた。</li> <li>・ 今までにない参加者を発掘することができた。</li> <li>・ かほく市内に限らず、活動のフィールドを広く見出すことができた。</li> </ul>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント参加者がクラブ会員となって運動継続できる仕組みづくり</li> <li>・ より広く対象者に対して告知するための広報手段の構築</li> </ul>				

## 小学校体育活動支援

派遣先学校総数	6 校
コーディネーター総数	1 名

### ◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ 主たる関係団体である、小学校ならびに教育委員会との連携体制の構築に力を入れた。特に何のためにこの取組を行うかという目的を共有することを意識した。「地域の子供達の体力向上に貢献すること」、「運動好きの子供達を増やすこと」を目的として、関係者に説明を行った。説明はかほく市生涯学習課、学校教育課、教育長の教育委員会関係者および、かほく市校長研修会では全小学校校長に対して説明を行った。説明に対して、関係機関からの理解を比較的早く得ることができたのは、目的が関係者のニーズに合致していたこととともに、これまでクラブパレットが「子どもの居場所づくり事業」、「放課後子ども教室」、などの事業をかほく市と協働して実施してきた実績が評価されたことと考える。
- ・ 各小学校へのコーディネーターの派遣の現場では、学校側の負担が増えないように、極力事前打ち合わせ等の時間を割愛し、先生方が安心して事業を活用できるように工夫した。そのため、コーディネーターの人は指導力以上に臨機応変に対応でき、かつ学校現場の事情もわかる元教員を採用した。

### ◆成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ 巡回先の小学校では「回数を増やして欲しい」という要望が出ているほど喜ばれている。
- ・ これまで学級担任の先生だけでは指導出来なかった専門的な指導ができるようになった。
- ・ 市内各小学校とクラブパレットとの連携を促進する機会となった。
- ・ 学校側からも文科省の受託事業が終わった後も継続したいという要望が出ている。
- ・ 子どもたち自身も「できるようになった」と喜びの声をあげていた。

#### 〔課題〕

- ・ この事業の目的を学級担任の先生方にも十分に伝えていくこと。
- ・ この事業を総合型クラブが関わって進めていることを理解してもらうこと（PR不足）
- ・ 増えてきたニーズに対応して、第2、第3のコーディネーターを発掘すること。
- ・ コーディネーターの資質向上の仕組みが必要。
- ・ すべての学年・学級にコーディネーターが派遣できていない。
- ・ 今後の継続モデルをどのように構築していくか検討する必要がある。

## 本事業全体の成果と課題

#### 〔成果〕

- ・ 3つの事業を通じて、クラブにとって新しい活動分野を広げることができた。
- ・ トップアスリートが築き上げてきた尊い実体験を地域において還元する仕組みをつくることができた。
- ・ 委員会の委員を県内のクラブマネージャーに委嘱したことで、様々な事業のノウハウを共有することができた。このことは、拠点クラブとしての役割を果たす成果につながったといえることができる。

#### 〔課題〕

- ・ 事業実施関係者にこの事業の目的をもっと理解を深めていただくことが必要であり、その中から更に創造的な事業が実施できると考えられる。
- ・ この事業とクラブ本体事業がつながっていく仕組みを構築し、事業委託期間終了後の継続モデルを検討していくことが必要。